

新屋振興会と秋田美大 地区活性化の活動報告



各団体が活動報告を行った交流会

秋田市新屋地区の町内会代表でつくる新屋振興会と秋田公立美術大学は21日、新屋地区の活性化策を考える交流会を同市の西部市民サービスセンターで開いた。大森山動物園や新屋ガラス工房、NPO法人など計5団体も参加し、それぞれの活動を報告した。交流会は連携して地区活性化に取り組む体制を築こうと2016年から実施。振興会

の赤沼侃^{たけ}会長や秋田美大の霜鳥秋則学長ら28人が出席した。初めに赤沼会長が「団体同士で手を組むことが、新屋

をよりよい街にすることにつながる」とあいさつした。

活動報告で振興会は、下水道施設の清掃ボランティアや、ホテルが生息できる環境づくりを目指して開いた勉強会について説明した。

15年から秋田美大と共同でイベントを行っている大森山動物園は、本年度の事業として動物園への案内モニュメン

トの制作を同大教授に依頼しているとし、「来年3月にキリン形の看板を新屋交番前の市有地に設置する予定」と報告した。

今回から参加したNPO法人「アーツセンターあきた」「松林・あらや」「新屋参画屋」もそれぞれの活動への協力を呼び掛けた。

(佐藤和輝)